

学校だより

希望 共生 個性



かないずみ

令和6年6月28日 NO. 3 佐渡市立金泉小学校

ふるさと体験の先にあるもの

校長 矢嶋 義宏

先日、尖閣湾揚島遊園で無名異焼の陶芸体験を全校で行いました。そしてその後、3～6年生の子どもたちが北沢窯を訪問して、実際に無名異焼をつくっている職人さんの様子や工房の中の様子を見せていただきながら、無名異焼づくりについてお話を聞いてきました。その中で、北沢窯の其田さんから次のことをお聞きすることができました。

- ・無名異焼の「無名異」とは、金山から取れる土の名前のことで、キメが大変に細かく、鉄分を多く含んでいる。この土と「野坂粘土」を混ぜて、無名異焼をつくっている。
- ・「無名異土」にも、よい土とわるい土がある。それを職人が見分ける方法は舐めることである。味（血の味）と舌触り（粒子の細かさ）が判断基準であり、その感覚を磨くには長年の経験が必要である。（10年の経験がある其田さんも、未だにはっきりしないとおっしゃっていた）
- ・無名異焼の特徴の一つは、器を焼いた後は30%ほど縮むことである。（一般的には10～15%）したがって、焼いている途中で非常に割れやすい。
- ・無名異焼は、使えば使うほどツヤが出るので、是非使い込んでほしい。
- ・無名異焼で大事な作業は、キメの細かい土を作ることである。時間はかかるが、この作業の方法は、昔から変えていない。
- ・「水挽き」という土のかたまりから器の形に成形していく作業は、乾燥させないようにスピードが大切である。その後の形を整える「削り」という作業は、ていねいに慎重に行う。



その後、このお話を受けて、Kさんは次のように質問しました。

其田さんは、今までどのくらいの無名異焼をつくりましたか？

Kさんは、無名異焼の特徴やその工程、つくることの工夫や難しさを教えていただく中で、其田さんの無名異焼に対する強い思いを感じ取り、其田さんがどのくらい無名異焼とかかわってきたのかを確かめたくなったのです。すると其田さんは、この質問に対して「数えていないので全部はよくわからないが、この仕事を始めて一年目は、毎日50個以上も作った。それでも師匠から、毎日、全部ダメだと言われて、壊しては作り、壊しては作りの連続だった。」と答えてくださいました。そしてYさんは、この見学感想を次のようにまとめました。

(略) つくるためには、大へんなことがたくさんあることもわかりました。

今後の学習では、「どうして其田さんは、その大変さを克服してまで、無名異焼づくりに取り組み続けているのか」という課題を、みんなで考え合っていくことが大切であると考えます。今回の陶芸体験と北沢窯の見学は、子どもたちにとって大変楽しい活動であるとともに、無名異焼が私たちのふるさと佐渡の自慢であり、誇りであると思える活動となりました。無名異焼が、その佐渡の自慢や誇りとなることの理由をさらに深く探る鍵が、この課題を考えていく先にあると、私は思うのです。これからの子どもたちの学びがとても楽しみです。

7・8月の主な予定



【7月】

- 1日 (月) 全校5限下校
- 2日 (火) 委員会⑦
- 3日 (水) 全校漢字テスト
- 4日 (木) 地域子ども会
個別懇談会①
- 5日 (金) 個別懇談会②
- 9日 (火) クラブ③
- 10日 (水) 全校5限下校
- 16日 (火) 全校5限下校
- 18日 (木) 着衣泳学習
- 22日 (月) 全校4限下校

23日 (火) 全校4限下校

24日 (水) 終業式

25日 (木) 夏季休業開始(8月25日まで)

【8月】

13日 (火) 学校無人化(16日まで)

25日 (日) 夏季休業終了

26日 (月) 始業式・給食開始
全校4限下校

27日 (火) 全校4限下校

28日 (水) 全校5限下校

30日 (金) わくわく朝会②

31日 (土) PTA奉仕作業

6年修学旅行 (三条・長岡方面 R6. 6. 13-14)

